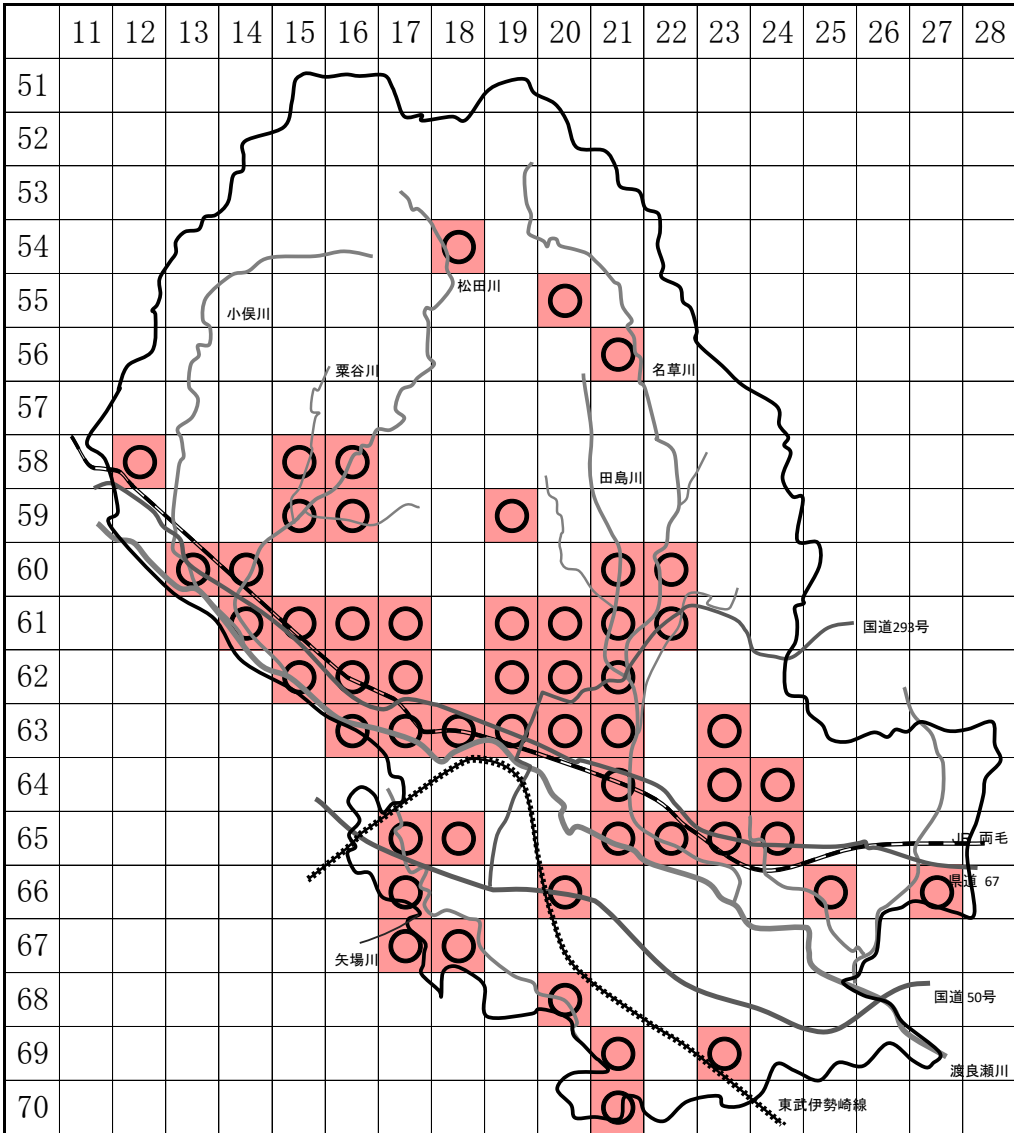


<h1 style="font-size: 2em;">アゲハ</h1> <p style="font-size: 1.2em;">ナミアゲハ</p>	確認数： 53 メッシュ
	報告数： 53 メッシュ
	2020年度 48/52 2019年度 59/61

※過年度 確認数/報告数



ナミアゲハともいわれているアゲハで、春型と夏型がある。春型は小さく夏型は大きい。幼虫はサンショウ・カラタチ・ミカンなどの木で成長する。このチョウによく似ているものにキアゲハがいるが、これは濃い黄色をしている。どちらもごくふつうに見られるチョウである。

かんさつてきき
観察適期
3月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

報告数は53メッシュで昨年よりも多く、全ての報告メッシュで確認されました。場所はこれまで同様に市内各地で確認されました。

植物遷移の初期段階（先駆植物）に出現する主要な食草の一つであるカラスザンショウと、好んで蜜を吸いに訪れるクサギが市内山間部を中心に多く見られることもあり、毎年安定した個体数を維持しているようです。

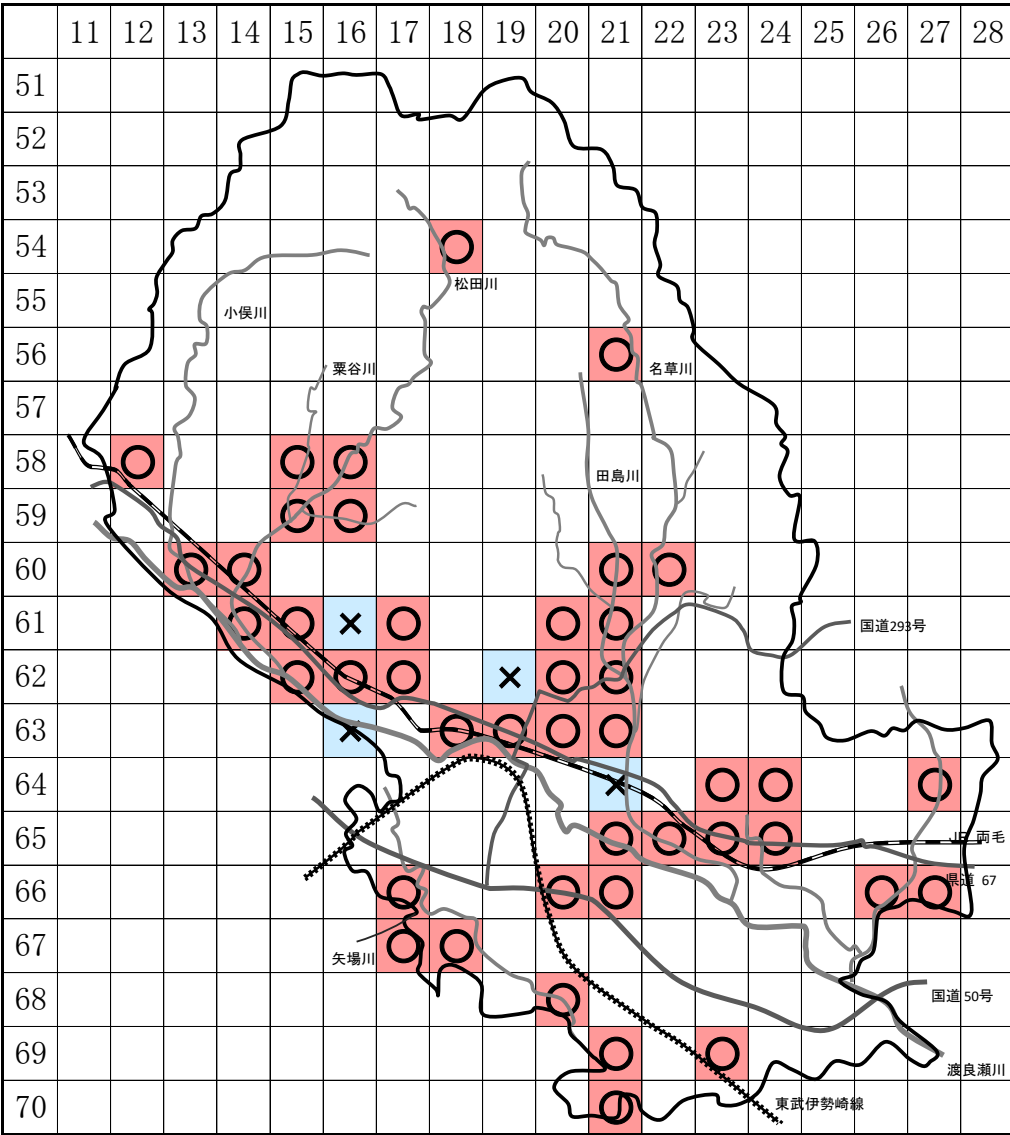
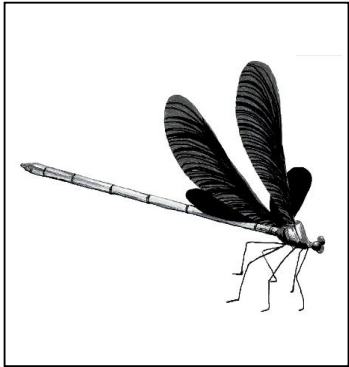
ハグロトンボ

確認数： 43 メッシュ

報告数： 47 メッシュ

2020年度 47/53

※過年度 確認数/報告数



おおきさは約5.4～
6.8cm。細長く黒っぽい翅を持ったヒラヒラと飛ぶトンボ。多くは河川に近い場所に生息しており、川の近くにある草原や林などでもみることができる。

かんさつてきき
観察適期
5月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

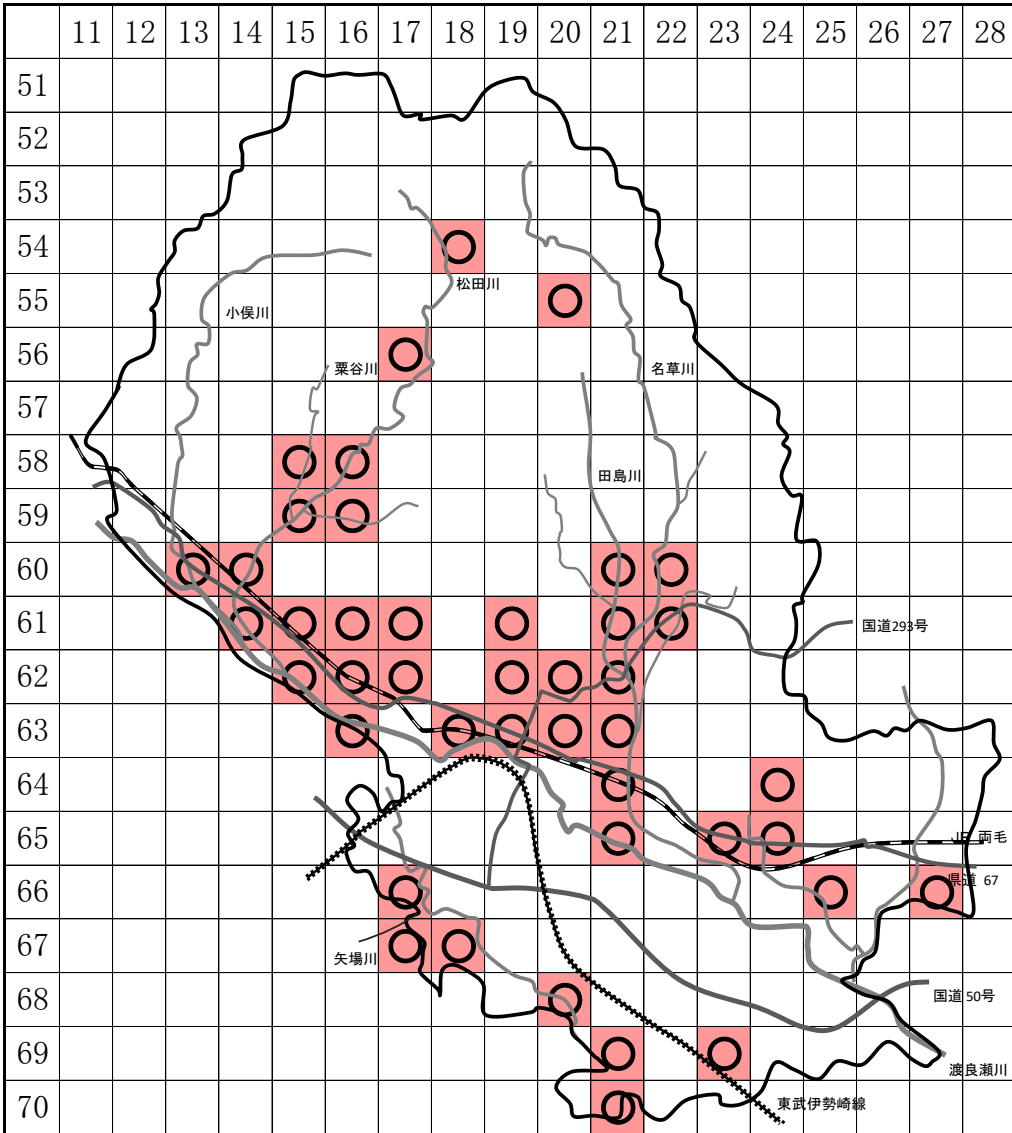
調査結果

昨年よりもやや少ない報告ですが、足利市では広い範囲に生息していることがわかりました。特に河南地域にも引き続きいることがわかりました。おもに河川の下流域に住み、やや汚染された水域にもいるようですが、東京都や神奈川県では絶滅危惧種となっています。

黒いとんぼで動作が緩慢で見つけやすく、水質の変化にも敏感に反応することから環境指標として適した昆虫であると言えます。

アキアカネ	確認数： 43 メッシュ
	報告数： 43 メッシュ
	2020年度 47/51 2019年度 60/63

※過年度 確認数/報告数



初夏に羽化した成虫は山へと移動し、秋に平地に降りてくる。移動をするトンボとしてよく知られる。何百匹のトンボが飛び交い、電線に止まっているアキアカネの行列を見たのはもはや過去のことになってしまった。

かんさつてきき
観察適期
7月～10月

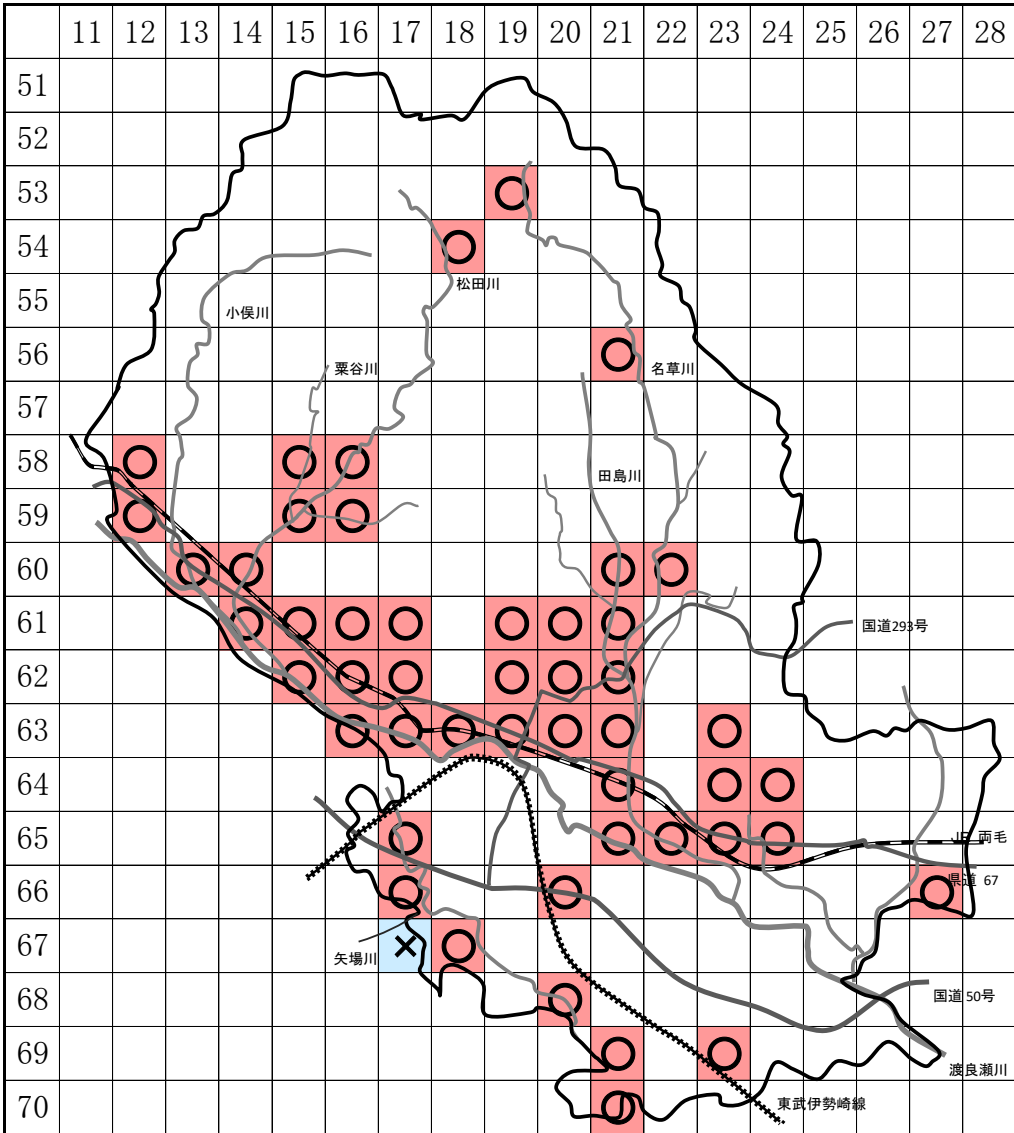
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年（令和2年）よりもやや少ない数の報告がありました。これまで同様市内各地で確認されましたが様々な理由により確実に減少していることは間違いありません。なかでも減少に追い打ちをかけたのが平成5（1993）年頃から使用されている、昆虫の神経伝達を阻害することで殺虫活性を発現するというネオニコチノイド系殺虫剤の影響が既に指摘されています。それでも足利市に生息する数種のアカトンボのなかでも多く見られるのがアキアカネです。

アブラゼミ	確認数： 49 メッシュ
	報告数： 50 メッシュ
	2020年度 56/58 2019年度 62/64

※過年度 確認数/報告数



セミの中^{なか}では、最^ももふつ^{しゅ}の種^{しゆ}類^{るい}である。からだ^{から}のいろ^{いろ}はくろ^{くろ}く、はね^{はね}はちや^{ちや}いろ^{いろ}であり、はら^{はら}にはしろ^{しろ}いこな^{こな}粉^{こな}のよう^{よう}なものがつ^ついでいる。

7月^{がつ}から8月^{がつ}にかけておほ^{おほ}くはっせい^{はっせい}し、ギーギーとおほ^{おほ}きなおと^{おと}をだ^だす。ヌケガラとい^いうと、このセミ^{せみ}のものをみ^みかけることがおほ^{おほ}い。

かんさつ^{かんさつ}てき^{てき}き
観察適期
 7月^{がつ}～8月^{がつ}

- 生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- 生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

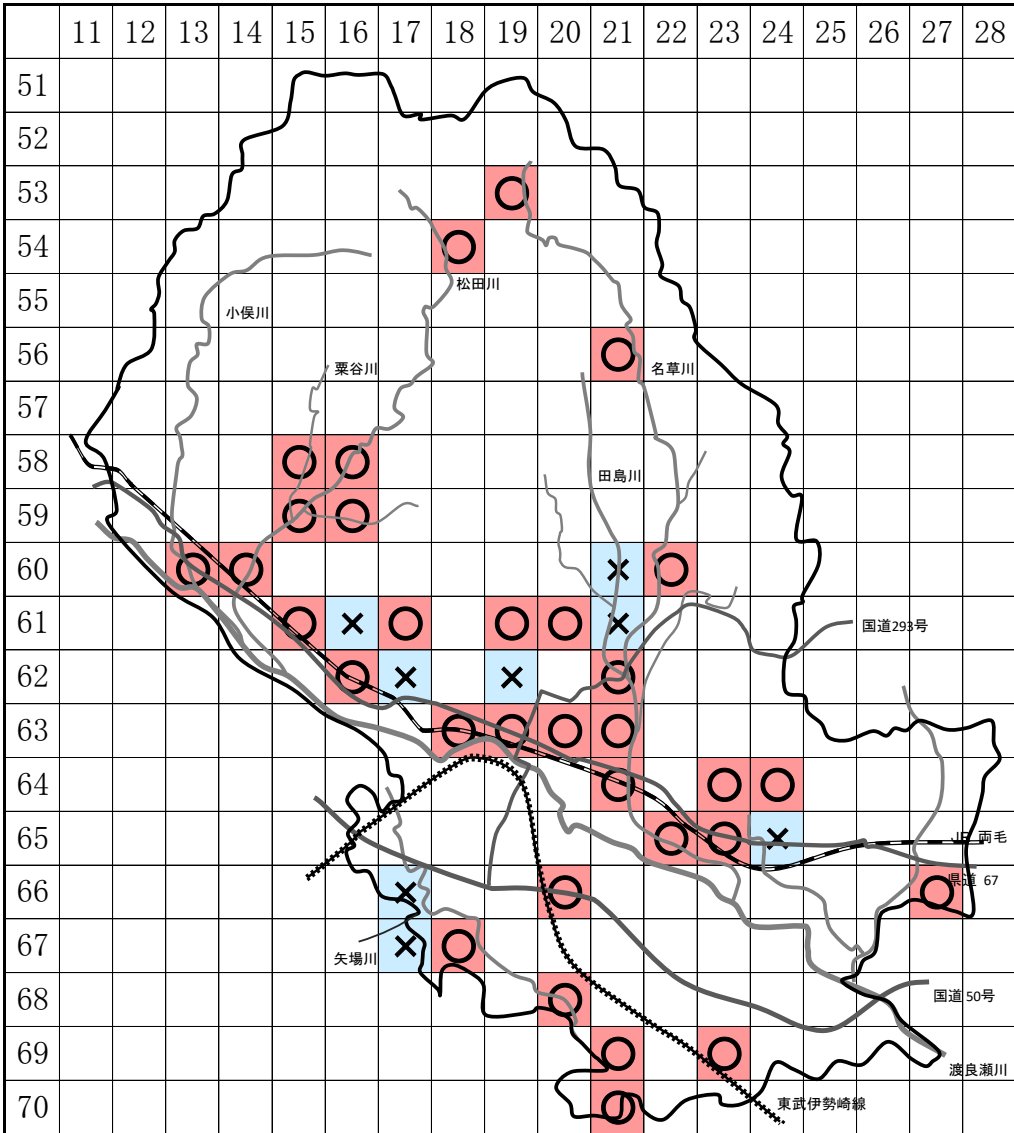
調査結果

昨年^{さくねん}（令和^{れいわ}2年^{ねん}）よりもすく^{すく}なめ^めのほうこく^{ほうこく}ですが、これまで同様^{どうよう}市内^{しやん}各地^{かくち}でかく^{かく}にん^{にん}確認^{かくにん}されました。あしがし^{あしがし}市^しでは最^ももかず^{かず}が多い^{おほ}いセミ^{せみ}で、はっせい^{はっせい}場所^{ばしょ}もひろ^{ひろ}いはん^{はん}い^いにわた^{わた}っています。とくにちよ^{とく}っとしたじゆ^{じゆ}りんち^{りんち}でもみ^みられ都会^{とかい}でも最^ももおほ^{おほ}いセミ^{せみ}です。

あしがし^{あしがし}市のぶんぷ^{ぶんぷ}じやうきやう^{じやうきやう}はさん^{さん}かん^{かん}ぶ^ぶではすく^{すく}なよう^{よう}で、このことはほ^ほかのセミ^{せみ}にはこう^{こう}てき^{てき}でもあぶ^{あぶ}らぜみ^{らぜみ}にとつてこう^{こう}てき^{てき}なかん^{かん}きやう^{きやう}ではない^いことをい^いみ^みてい^{てい}ているよう^{よう}です。

ヒ グ ラ シ	確 認 数 : 32 メッシュ
	報 告 数 : 40 メッシュ
	2020年度 39/44

※過年度 確認数/報告数



かつよくじ くるいろ みどりいろ
 褐色地に黒色と緑色
 はんもん さんの
 の斑紋があるセミ。山
 ち うすぐら はやし おお
 地の薄暗い林に多い
 じゅうたくち こうえん
 が、住宅地の公園にも
 いる。
 おもに夕方と早朝に
 「カナカナカナ
 ナ・・・」と哀調のあ
 る声で鳴く。夜間には
 ともしび と
 灯火にも飛んでくる。

かんさつて きき
 観察適期
 がつ がつ
 6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調 査 結 果

あしかがし ひろい はんい せいそく
 足利市の広い範囲に生息していることがわかりました。しかし市の中央部で未確認数が多く、
 アブラゼミがちょっとした樹林にもいるのに対し、ヒグラシの好むまとまった樹林が少ないこと
 が原因と考えられます。都会ではヒグラシの好む環境がなくなり鳴き声を聞けなくなった場所も
 あるようです。昨年同様喜ばしいことに河南地域でも結構生息していることがわかりました。

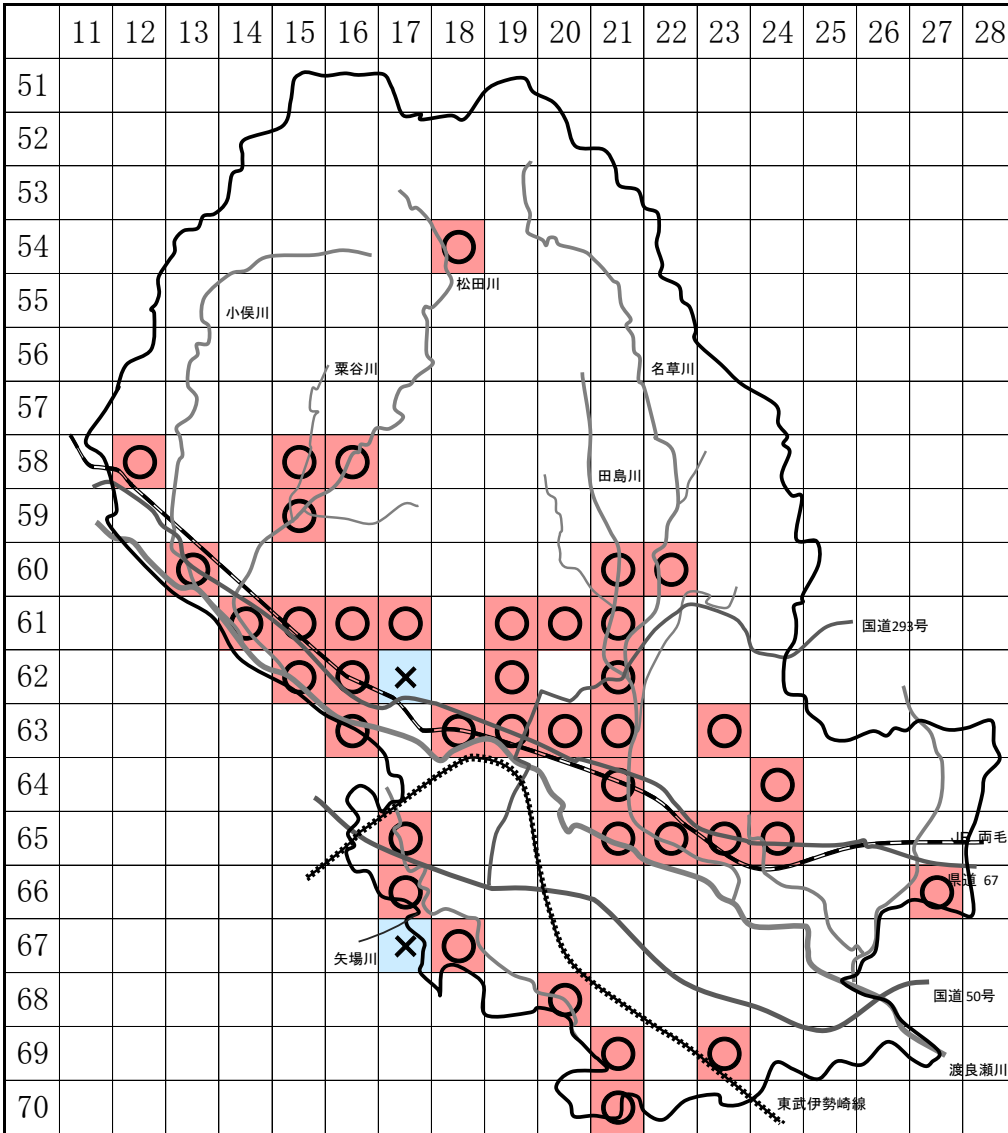
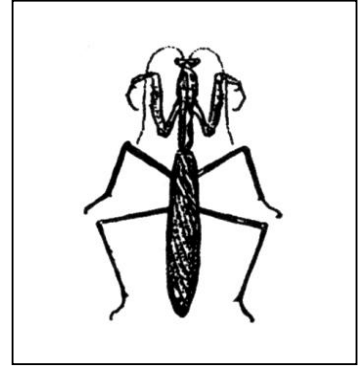
オオカマキリ

確認数： 39 メッシュ

報告数： 41 メッシュ

2020年度 42/44 2019年度 41/52

※過年度 確認数/報告数



体長は8cmほどあり、カマキリの中で一番大きい。色は緑色で、カマのような前足で生きている虫をとらえて食べる。

【見分け方】

<p>オオカマキリ たまご (卵塊)</p> <p>丸みがある</p>	<p>チョウセンカマキリ</p> <p>ほそなが細長い</p>
<p>うしろ翅</p> <p>黒い部分が多い</p>	<p>カマの付けね</p> <p>透明</p>
<p>黄色</p>	<p>朱色</p>

観察適期 8月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年（令和2年）とほぼ同じメッシュ数で確認されました。市内各地に広く生息していることが確認されました。確認数が徐々に減っている傾向であることから数は減っているものと思われます。大きなカマキリは「オオカマキリ」と「チョウセンカマキリ」の2種いて慣れないと区別は難しいのですが、区別点があれば意外と簡単に見分けられます。足利市で見られるのはオオカマキリがほとんどで、チョウセンカマキリがいたらぜひ教えてください。

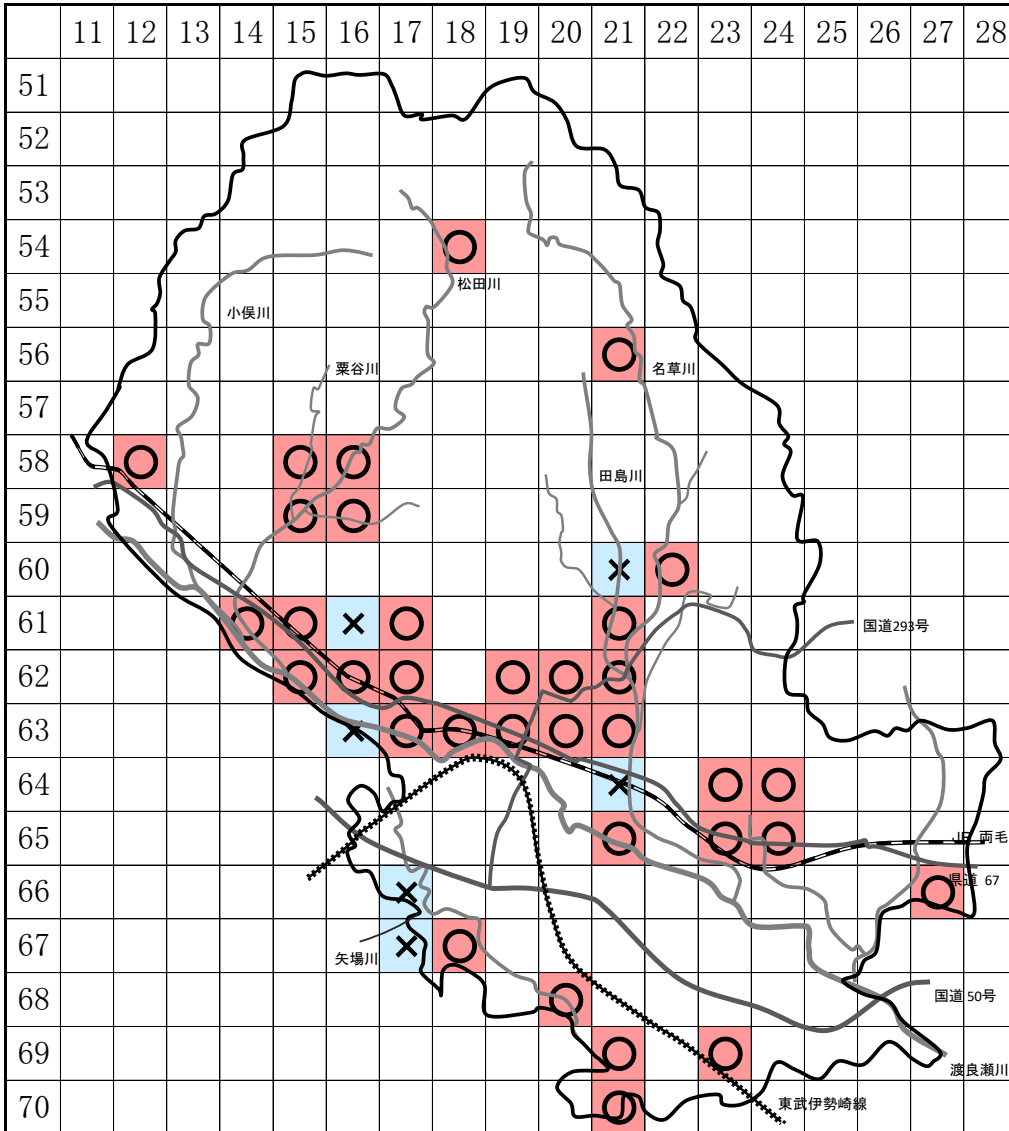
エンマコオロギ

確認数： 34 メッシュ

報告数： 40 メッシュ

2020年度 43/46 2019年度 44/56

※過年度 確認数/報告数



からだは^{ちやかっしょく}茶褐色で2
～3cmの大きさであ
る。^{おお}4月ごろ出て^{すうかい}数回
だっぴ^{だっぴ}脱皮をくりかえして8
がつごろ^{せいちゆう}成虫になる。

ほかにミツカドコオ
ロギ・オカメコオロギ
などがある。

かんさつてき
観察適期
が^がつ 8月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昨年（令和2年）よりも^{かくにんすう}確認数は20%の^{げんしょう}減少です。その^{りゆう}理由はよくわかりません。しかし^し市内各地に^{ひろく}広く生息していることが^{かくにん}確認されました。原^{はら}っぱや畑^{はたけ}、道^{みち}ばたなどに^{ひろく}広く生息し足利市では^{もっと}最も^{ふつう}普通に見られるコオロギの^{ひと}一つです。いまのところ^{あんてい}安定した^{こたいすう}個体数を^{いじ}維持しているものと思われま

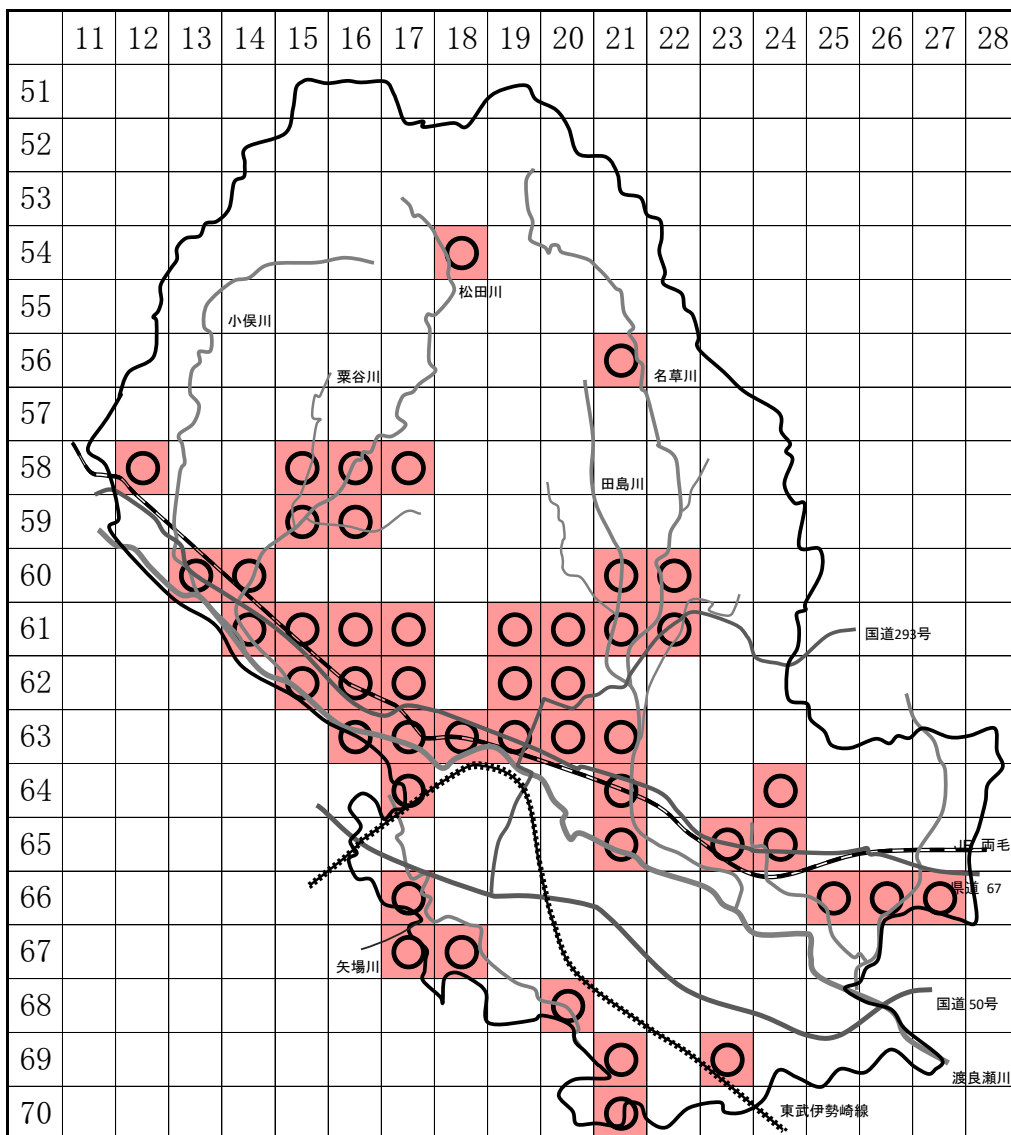
ナナホシテントウ

確認数： 47 メッシュ

報告数： 47 メッシュ

2020年度 49/51 2019年度 54/60

※過年度 確認数/報告数



おお
大きさは1cmぐらい
あかいろなか
で、赤い色の中に7つ
はんもん
の斑紋がある。
ようちゆうせいちゆう
幼虫・成虫は、アブ
ラムシを食^たべる。
ほかにナミテントウ・アカボシテントウなど多くの種類^{おおくしゅるい}がある。

かんさつてきき
観察適期
がつがつ
4月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

さくねん (令和2年) とほぼおなじメッシュ数で全ての報告メッシュで確認^{かくにん}されました。日^ひあたりの良い草地、畑^{はたち}地の周辺^{しゅうへん}、庭^{にわ}などいろいろなところ^{ところ}でよく見^みられます。年^{ねん}に2回発生^{かいほっせい}して成虫^{せいちゆう}で冬^{ふゆ}を越^こし、夏^{なつ}には夏眠^{かみん}をします。初冬^{しよとう}でも暖かい日^{あたかいひ}はよく見^みることができます。毎年^{まいとし}安定^{あんてい}した個体^{こたい}数を維持^{えいじ}しているものと思^{おも}われます。